

こんにちは♪ ちょっと早いけれど、もうすぐバレンタインだね。日本では女性が男性にチョコレートを贈る日として定着していますが、これが某チョコ会社の最高のヒット作だったというのは割と有名な話で、英米では男女問わずカードやプレゼントを贈ったりします。聖ヴァレンタインの殉教日はその起源で、古代ローマの豊穰祈願祭に由来するとも言われています。そんなルーツはともかくとして、みんなにとっては「特別な日」だよ。最近では「友チョコだけ」というひとが多いけれど、思いきって好きなひとに好意を伝えてみてはいかがでしょう？

図書館では、そんなバレンタインをサポートすべく、「すき」の参考書と題して恋愛関係の本を集めてみました。本に閉じ込められた、いくつものすてきな恋のかたちとめぐりあって、あま〜いバレンタインを実現しましょう。健闘を祈る！

「すき」の参考書 ～バレンタイン・セレクション

『ハチミツとクローバー』(全10巻) うみの羽海野チカ

『すき』の参考書の大本命！『3月のライオン』の作者が美大生の楽しくも苦しい生活を描いたマンガですが、2つの三角関係の物語でもあります。恋にまつわるあらゆる想いがこの作品には描かれています。自分では気がつかないうちに恋に落ちてしまっていること、好きなひとの前では自由にふるまえずギクシャクしてしまい苦しくてぜんぜん楽しくないこと、求められたわけではないのに声のひびきだけで鳥取から東京まで真夜中の高速を8時間飛ばして会いに行ってしまうこと…。「恋愛小説なんて！」というキミも、恋愛小説を読みつくしたあなたも、「この気持ちわかるううう！！！」と身もだえてください！

『好きになったら』 ヒグチュウコ

大人気ヒグチュウコさんの恋する気持ちを描いた絵本。赤いワンピースのぱっちりとしたおめめがかわいい女の子は、ワニくんのことが大好きです。大好きなワニくんへの気持ちを告白します。「好きになったらしりたくなる あなたのすきなものを好きになったり あなたにとってだいじなものをりかいたくなる」「だっていっしょにいたいから」「好きになったらわたしのこともしてもらいたくなる あなたによろこんでもらいたくなる あなたのことでせかいかがかがやいてみえてくる」好きになったら。

『ラブレター』 おーなり由子

『すき』と声にだすと胸がいたくなるのは どうしてかな」。やわらかな「絵の本」で「よいもの」を届けてくれるおーなり由子さん。この本は1人の女の子の恋人への「すき」という想いをつづったもの。「わたしの恋人はへんてこで だれもいいといわないんだけど みんなはいいところを知らないだけ」1冊まるごと「すき」がつまっています。「すき みっともないところも やさしいところも」。「すき」になるってこんな気持ち。あきれるほどラブラブな『**幸福な質問**』もオススメ。「だいすき」。

『100万回生きたねこ』 佐野洋子

100 万年も死なないねこ。100 万回死んで 100 万回生きかえったねこ。いろいろな人にかわいがられて、ねこが死んだとき飼い主はみんな泣いたけれど、ねこはへっちゃら。どの飼い主のこともきらいだったし、死ぬことなんてこわくなかったから。だれよりも自分が大好きだったねこ。そんなねこが白いねこのことを好きになります。自分のことよりも好きになった白いねこが死んだとき、ねこは初めて泣いて、100 万回も泣いて、そして…。

『夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く』 しおみなつえ 汐見夏衛

映画化された『**あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。**』で汐見さんに出会ったキミはまずこれを！ こちらも映画化され、「10 代女子が選ぶ文芸小説 No1」にも選ばれた、きゅんきゅんの No.1 ラブストーリーです！ コロナ禍以前の物語。みながマスクをつけなくてはならなくなるまえに、マスクを外さずにはいられなくなってしまった「マスク依存症」の女の子が主人公。マスクは手放せないのだが、あかみ優等生キャラを自ら演じ、クラスの誰とでもうまくやっている茜にもたったひとりだけ苦手な生徒がいた。青磁。容姿端麗で真っ白な銀髪、自由奔放で絵もうまく、とかく注目を集める彼。2年でクラスが同じになり、微笑みかけたところ、あろうことか面と向かって「お前のこと、大嫌い」だと言い放ったのだ。誰からも嫌われないことを最優先に生きてきたのに信じられなかった。それがきっかけで茜にはマスクが必須となった。いったい青磁はどんなつもりであんなことを言ったのだろうか？ 青磁のことを大嫌いになった茜だが、彼の描いた美しい空の絵を見て涙を流す。泣いたのはいつぶりだろう。作り笑いでなく、心の底から笑ったのはいつだろう。茜は青磁によって目を開かされていく…。ほかの汐見さんの小説は大人気で、コンプしてしまう人が続出です！ 彼女が元高校国語教師で女性だってことをあなたは知っていましたか？

『チョコレート・コンフュージョン』 ^{せいそう} 星奏なつめ

「私だって、できるものなら恋したいよ？ なんかこう、胸の中の子猫が、みいみい鳴き出すみたいなの、甘く切ない気持ちに浸ってみたいなあって思う」。恋ができずにいる 26 歳独身OLの千紗が、バレンタインにようやく仕事を終えて帰ろうとすると、鎧だと思っていたお気に入りのパンプスのヒールが折れてしまう。心まで折れそうになっているときに現れたのが、凶悪な目つきから殺し屋と恐れられている龍生だった。彼に友達から譲り受けたチョコのうちのひとつをあげると、翌日彼から「私も同じ気持ちですから…」と交換日記(!)を渡される。実はそのチョコには「愛しています」とピンクの文字で手書きがされ、龍生にとってそれは生まれて初めての本命チョコだったのだ！「断ったら殺される!？」千紗はやむを得ずつきあうことに…。有川浩のような、激甘でハッピーエンドなラブコメ！

『^{るろう}流浪の月』 ^{なぎら} 凧良ゆう

松坂桃李、横浜流星、広瀬すずほか豪華キャストで映画化された本屋大賞受賞作！ 少女誘拐事件の被害者と加害者。かつて9歳と19歳だった二人の関係は「事件」などではなかった。15年経って二人が再会したら…という物語。浮世離れした母親と彼女をやさしく受け入れる父親。ほかのどんな普通の家庭とも違っていただけで幸せだった更紗の家族は、病気で父が亡くなり、母親が恋人と失踪して失われてしまった。更紗は叔母の家に預けられ、常識のある子どものふりをしていただけで、息の詰まる家に帰りたくなくて、公園で本を読んで過ごすようになった。向かいのベンチにはロリコンと噂される若い男の人がいた。ある日、雨が降ってきて傘がなくてそれでも家に帰りたくなくて泣きたくなっていると、彼が「帰らないの？」と声をかけてきた。彼はすごく綺麗な顔をしていて、お父さんに少し似ていた。「帰りたくないの」と答えると「うちにくる？」と訊く。更紗は彼について行くことに決め、二人の同居生活が始まった。当然ながらそれは事件となって…。「わたしは文が好きだ。それは恋とか愛とか、そういう名前をつけられる場所にはない。どうしてもなにかに喩えるならば、聖域、という言葉が一番近い」。二度目の本屋大賞受賞作となった『**汝、星のごとく**』とその続編『**星を編む**』もオススメ！ 確実に映画化することでしょう！ 「登場人物だけでなく、読む人の人生にも踏み込まざるを得ないくらい本気の恋愛小説が増えてほしいですし、私自身、これからも書いていきたいと思います」という凧良さん。なかなか本気の恋愛小説とめぐりあえない今、彼女には期待しています。

『武道館』 朝井リョウ

「若くて、女の子で、歌うことと踊ることが大好きで、大好きな人のことも大好きだという状況は、どうして成り立たないのだろう」。アイドル小説ですが、最高の恋愛小説でもあります！歌うことと踊ることが何よりも好きな愛子は、アイドルグループのメンバーになって武道館を目指すのが、いつまでも17歳ではいられないことを悟り、アイドルとしてはタブーの一人の男性を好きだという気持ちに素直になろうとする…。「今この瞬間が、これからの自分の人生で、どれだけ支えになるだろう」。

『世界の終わりという名の雑貨店』（『ミシン』収録） 野ばらちゃん

「ねえ、君。雪が…」。僕が開いた「世界の終わり」というお店に毎日のように通ってくれた君。全身を Vivienne Westwood で固めた君の顔には、残酷な神の悪戯いたずらが施されていました。君の Vivienne は自分を守るための鎧だったんだね。店を閉めることになったクリスマスの日に、僕は君を逃避行に誘いました。列車の中で、話すことのできない君の書く言葉から、君のことを知りました。僕たちは同じ魂を持った二人だったのです…。「嗚呼、君の魂は誰にも気づかれずこっそりと壊れていったのです」。

『ナラタージュ』 島本理生

松ジュン&有村架純で映画化！「壊れるほどに張りつめた気持ち。ごまかすことも、そらすこともできない二十歳の恋」。大学2年の春に高校時代の演劇部の顧問の先生からかかってきた電話。後輩たちの卒業公演に参加してくれないかという用件だったが、泉は問いかける。「本当にそれだけの理由ですか」。高校を卒業するとき泉は先生に想いを告白していた。封印した想い、息もできないほどの想いが、いま甦る。真剣な恋の物語。

『オルフェウスの窓』（全9巻） 池田理代子

「心配したんだ… 心臓がいたくなるほど… 体がちぎれそうなほど…」。「ベルサイユのばら」の作者が、「ベルばら」のあとに描き、これを最後に少女マンガを描くのをやめた、最高の少女マンガ。ドイツのレーゲンスブルクを舞台に音楽を、ロシアのペテルスブルクを舞台に革命を、そしてその双方に燃えるような恋を描いた大傑作。男装の麗人ユリウスが、運命の窓の下で出会った恋人クラウスを追って、革命のロシアをさまよいます。宝塚が恋と革命をテーマにするのは、それらが非日常へと運んでくれるからですが、そんなツカ精神の理想形のような超ドラマチックな作品。「ベルばら」の100倍面白いです（せーやさん比）。